



会 報 第16号

●発行所●
栃木県立真岡農業
高等学校同窓会
●発行人●
同上編集部
●印刷所●
こだま印刷



『本校生への期待』

同窓会長 菊地 恒三郎



ごあいさつ
学校長 菅 谷 善 六

一九九一年、平成三年
は内外ともに激動の年で
ありましたが、平成四年
はどのような年になるの
か、世界の動向も国内の
情勢も定かではありません
が、我が国の農業にと
っては直面している米の
問題を中心にして、大き
く変わらざるを得ない年
であると思います。

東西対立の時代が終わ
り、資本主義国家同士の
対立の時代が来ることは
間違いないと見えます。急
激な世界人口の増加による
食糧難時代の到来は、私
たちに不安の影を落して
います。世界の自由貿易
自由競争のなかで、我が
国の農業が進むべき道は
未だ定かではありません
有り余っていると思われ
る食糧も、その自給率は
30%台であり、既に食糧
の安全保障はないに等し
いと言わざるを得ません。
世界の先進国の中で最低
であり、資源を持ちえな
いことと併せて考えれば、
誠に肌寒い思いがいたし
ます。

これからどうするの
かまさに日本の農業の正念
場であります。いまこそ
将来の日本を展望し、立
国の精神と農業の未来と
を賭けて、農業教育を新
たにし優秀な後継者の育
成が急務であり、農業高
等学校の使命は正にここ
にあります。
しかしながら、現実には
農業を後継する者が少
ないことを思うとき、将
来様々な職場において社
会人として、職業人とし
て立派に活躍のできる人
間教育の重要性をも痛感
いたします。額に汗して
命を育み実りを実感する
農業教育はどの教育より
もすばらしいものであり、
諸君はその教育を受けた
ことに、自信と誇りを持
つて将来に踏み出して
いただきたいと願いたし
ます。

いつの時代にも、社会
に貢献できる人間として
活躍されることを心から
期待しています。



この四月の定期異動に
より、図らずも本校にお
世話になることになりま
した。
前任の木山八郎校長先
生はじめ、歴代の校長先
生方が教職員、及び同窓
会の皆様と共に営々と本
校の校風を築かれ、天下
の真農高としての存在を
顕示されました。そして
学科の再編を、創立八十
四年の歴史を礎に行い、
その充実発展期として歩
み始める時期にあたり、
私がその重責を担うには、
余りに浅学非才でありま
す。しかし、幸にも、他
に例を見ないほど恵まれ
た職員構成のもと、教職
員の信念と教育愛に励ま
され、同窓会、並びに保
護者の皆様方のご理解を
いただき、誠心誠意、努
力して参りたいと存じま
すので、なお一層のご支
援、ご協力をお願い申し
上げます。

二十一世紀の足音も間
近に迫り、農業問題に関
しましては内外の産地間
競争の激化、米の自由化
の問題、農業就業人口の
減少、高齢化等、問題点
も多く、教育面では高学
歴化が進み、普通科志向
が高まる今、中学卒業生
の減少とあいまって、職
業学科に入学する生徒も
能力、進路等が多様化し
ている現状であります。
このように農業、及び農
業教育をめぐる情勢は一
段と厳しい状況でござい
ます。

そして魅力ある職業教
育を推進するには、目的
意識の高い生徒を受け入
れる方策を講ずるとも
に、多様な生徒の実態に
応ずる教育活動を展開す
る必要があるかと存じ
ます。
そこで本校では、職業
教育を充実、発展させる
ために学科や教育内容、
方法を見直し、情報処理
や生物工学等の施設設備
の整備を図り、新しい時
代にふさわしい学校教育
に向けて教職員、生徒が
一丸となって邁進してい
るところであります。
以上が本校の置かれてい
る概況でございます。
次に、校内の主な出来
事を列挙し、ご報告いた
します。

発表の部においては、二
部門が関東大会に出場し、
「もったいない精神でゴ
ミを減らそう」の研究で
入賞を果し、「抗菌微生物
を用いた土壌病害の生
物的防除」の研究では第
一位となりました。
さらに第一位となった
研究は、去る十月二十三
日、新潟県で行われた日
本学校農業クラブ全国大
会に出場して最優秀賞を
獲得し、併せて文部大臣
奨励賞を受賞いたしまし
た。
(3) 部活動におきまして
は、男子弓道、ライフル射撃、
陸上競技が関東大会に出
場するなど、少しづつではあ
りますが、活動の成果が上
りつつあります。
(4) 制服改定につきまし
ては、平成元年度に制服
改定検討委員会を設置し、
県内外高校の実情を調査
するとともに、本校にふ
さわしい制服について十
数回にわたる委員会、職
員会議等で、慎重に検討
を重ねる一方、同窓会役
員会、PTA役員会にお
いて、改定の趣旨説明を
申し上げ、それに付随し
て、ご教示をいただきな
がら、制服の成案をみる
ことができ、去る十一月
一日の同窓会役員会、並
びに十二月十三日のPTA
役員会で最後のご理解
をいただきましたので、
平成四年度入学生から学
年進行で実施いたしたい
と考えております。
以上、教育活動の一端
を申し上げます。
今後とも本校生徒が将来
社会の有為な形成者とな
るよう、生徒一人ひとりの
能力を最大限に伸ばす
べく、教職員一同、努め
て参りたいと考えており
ますが、本校教育が然る
べき成果をおさめるため
に、今後とも、同窓会の
皆様方からの忌憚のない
ご意見をお寄せいただ
くとともに、本校教育に
深いご理解と、ご支援を
賜りますようお願い申し
上げ、挨拶に代える次第
でございます。



『黄綬褒章を拝受して』



昭和十九年度卒
大内支部長
小坂利雄

さわやかな早春の風を肌で感じられない毎日が続いて一年、漸く胸が成形術の適応症と診断され、昭和二十四年の十一月助骨七本切除をして、先ずは回復のスタートにつく事が出来た。四十年前の結核療養は全くの自然療養でありまして、手術成功の診断が出ても二年前から社会復帰の為に歩行から、軽作業一日八時間の療法を終えて、始めて退院の許可が出た。したがって回復期に入ってから数年間は、色々なグループが出来て何時も趣味の碁・将棋から難しい学問の話など、思い思いの話に花が咲いたものです。

多感な二十代の私達にとっては何もかも、初めて聞くものばかりで、学問の深さに溜め息をついたり、退院後の自分の生き方に思いをいだいたり、入院一年後漸く生き甲斐を持って毎日を送れる様になりました。

療養生活二年を経ずして退院した私は、当時公民館運動を大々的に、行政が指導し始めた時でありました。

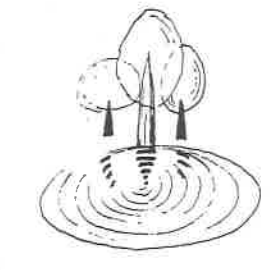
早速、この手伝いを始めたのでしたが、公民館運動の思想が、結核療養所で身につけた雑学が役に

に立つて、担当の職員と所中議論をしたものです。当時の人達も定年退職でおりませんが、当時が懐しく思い出されます。

昭和三十八年多くの同志も出来、皆んなから強い要請もあつて市議会議員に立候補、当選、其の後、農協組合長、連合会の会長と、市議会議員から通算三十年公職についておりました。本当にどんなに御礼を云つても云いきれない御支援を頂戴致しました。

とりわけ農協共済の仕事、後半の十年やつて参りまして、相互扶助の根幹としたこの事業の中心味を知る事が出来て、一つの物を身につけた喜びを感じて居ります。

今回この様な大きな賞を戴いて恐れ入っています。今後共、同窓の皆さんの御指導を賜り、幾分でも御役に立ちたいと思つています。重ねて同窓会の皆さん方に深く感謝を申し上げ、ペンを置かせて戴きます。



勲五等双光旭日章受賞
『真農精神に支えられ
叙勲の栄に浴して思う』



昭和十二年度卒
宇都宮支部
山田博

湾岸戦争から始まりソ連の消滅、そして国内はバブル経済の崩壊、金融証券等のスキヤンダル、混乱する政局等正に激しく揺れ動いた一年が過ぎて迎えた平成四年、果してどのような年になるか不透明な、そして波乱含みの予断の許されない年のような気が致します。

今年には午支では壬申(みづのえさる)、昔から変化の多い激動の年とも云われていますが、嫌な想い出は「忘れさる」ことに

して、気分を一新して新しい秩序づくりへの挑戦する気構えが必要かと思ひます。

「トライ・アンド・エラー」試行錯誤を繰り返して迎えた時代の荒波を乗り越えて行かなければならない時ではないでしょうか。

輝かしい歴史と伝統を誇る我が母校も創立八十年有余年を経て今日の繁栄を維持し続けて来た蔭には同窓会を始めとし、明日の時代を担う若人の教

育に情熱を傾注して下さい。教職員、多くの関係者の母校愛に燃える並々ならぬご努力の賜物と感謝致しております。私事で恐縮ですが、昭和十二年卒業当時は満州事変、上海、支那事変と戦雲暗く立ち込め、国内外は一触即発のキナ臭い時代であり、戦争の気配はひしひしと肌を感じられて来た時、昭和十六年真珠湾攻撃、そして太平洋戦争と不幸な時代に突入して丁日の時代を担う若人の教

派遣を命ぜられ、第一線で戦っておりました昭和二十年八月十五日、奇しくも支那事変勃発の地、盧溝橋に於て終戦の詔勅を涙と共に拝し北京に集結、武装解除、翌昭和二十一年復員、懐しの故郷五行川のほとりの我が家に辿りつきました。故あつて宇都宮市の職員として奉職。戦火に焼け爛れた郷土の戦災復興に精神を傾け地方自治の振興発展に努力してまいりました。

本校を卒業以来今日まで五十余年、半世紀にわたり其の間軍隊生活に於ても、又公務員生活を通じて常に持ち続けて来た素晴らしい伝統の中に育み培われた「真農精神」を心の支えとして今日まで参



昭和三年度卒
物部支部
小宅栄

に移したい。私は真岡農学校を卒業した訳だがその場所は現在工業高校の有る処であつた。目つむればあの木造校舎が、そして校庭がはつきりと目の前に浮ぶ。校長は相馬清五郎先生で、勤厳な授業は修身と漢文であつた。

農業は国民の食物を作る最も重要な職業であると教えられた。私は農学生である事に大きな誇りを持つて通学した。桜町四千石の復興に当つた二宮尊徳の「報徳」の教えも母校の校風として教えられた事を覚えてゐる。

私の同級生は卒業時47名であつた。現在では80才か81才になっているので、果して何名生存して

真岡農業高等学校同窓会より、会報に「勲五等瑞宝賞」を戴いた感想を書き様にとお話がありました。老眼なので迷つたが、なつかしい母校からのお話なので八十一才の老人ながら駄文をまともてみたいと思ひます。

私の受賞は夢の様で、私などがその対象に選ばれるとは思ひもありませんでした。賞状は「日本国天皇は小宅栄を勲五等に叙し瑞宝章を授与する」とあるだけです。

私は総務庁長官「國務大臣」より「行政相談委員」を委嘱されて満二十年其の職にありました。地域住民の行政に対する苦情の解決、又は意見、要望の積極的な発掘、収集に当り、心配ごと相談に力を入れ、特に行政の民主化、能率化に自分の力なりに努力した心算である。行政相談員は普通の町村では一名なので心配ごと相談員と助け合つて第一火曜を「相談日」と定めて実施している。心配ごと相談員は、民生委員、人権擁護委員、農業

委員、保護司の代表がなっている。皆立派な方々である。私の処への相談は何時でも自宅へ来て、夜も昼も無い。それから電話の相談の人もある。難しい問題は「栃木行政監察事務所」に御指導を乞う事だが、時に役場の課長さん級、又は県民相談にお願ひする事もあ

る。それから役場職員を一人行政相談員の事務的なことを全部処理してくれる方をつけてくれるので、誠に有難かつた。

話をかえて母校の追憶

PTA会長として思う



PTA会長
大関正巳

新春を迎え同窓会各位をはじめPTAの皆様には、益々ご健勝の事と心からお慶び申し上げます。私も会長を引き受け皆様方のご協力でPTAの事業も盛大にでき、一年が過ぎ去ろうとしています。さて、本年度のPTA活動につきましては、支部会に始まり、真岡支部が今年から三支部に分割され、真岡支部・真岡東支部・真岡西支部となり、十五支部になり、多数の参加者のもとに盛会に支部会が開催されました。

本年度は、関東地区高等学校PTA連合大会が七月三日より、七月四日宇都宮産業展示館、マロニエプラザで全体会、藤原町鬼怒川で分科会が開催、役員の皆様には協力ありがとうございました。役員研修、母の会の会員研修、学校祭、中でも本年度は二年に一度の一般公開の学校祭では、長崎雲仙普賢岳被災地の皆様に少しでもお役にとの被災地御見舞チャリティーバザーを開催し、生徒会始め皆様の数多くの協力のおかげで盛大に出き、又多くの御見舞金を送ることが出来ましたのも、皆様のご協力の賜物と心より厚くお礼申し上げます。

生徒達に、全国研究プロジェクト発表大会において、農業クラブの研究発表が栄ある最優秀賞及び文部大臣賞をいただき、発表者の皆様に記念品を贈る事につき、同窓会始めPTAから多大の助成をいただき、お礼申し上げます。

私たちは、先輩達の築いた伝統あるPTA活動を守り、急激化する都市化の中で、生徒達を取りまき、中でも中退者など多様化する、高校生の親子の断絶など、私たちPTAは、青少年の健全育成は、重要な役割で、親の姿勢は重大だと思ひます。

大会及び研修会で学んだことを参考に、同窓会員の皆様始めPTAと先生方が一体となり健全育成に努めたいと思ひますので、ご指導ご支援を心よりお願い申し上げます。

いるのか正確には分らない。同級生は二泊三日の温泉行きで年二回行つてゐるが、10名位しか集まらない有様です。

母校の繁栄をひたすらに祈つて終りと致します。

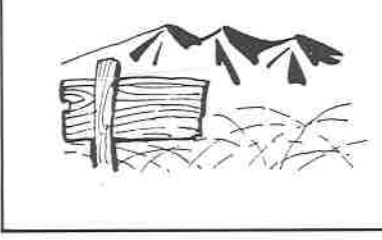
に祈つて終りと致します。

に祈つて終りと致します。

に祈つて終りと致します。

に祈つて終りと致します。

に祈つて終りと致します。



『母校』

昭和五十九年度卒
青年部長
高平 登順



私は昭和五十九年度に本校を卒業し、農業大学校に入り二年間農業と人間関係などを学び、農業をやって行くうえでの基礎を自分なりに身につけて農業に従事してきました。まだ七年間という短かい時間ですが、毎日、毎日が充実していて本当に農業を楽しんでやっていると、逆に農業に楽しませてもらっているような毎日であります。さて、去年大滝部長に

我家の農業経営

昭和四十一年度卒
山前支部
中里 友久



私は昭和四十一年度本校を卒業後就農しました。当時我が家は米麦中心でしたが、就農と同時に夏秋トマト10aの栽培を始めた訳ですが、非常に天候に左右され病害が出やすく品質にも問題がありました。そこで昭和四十五年生産性の高い農業を目指し、農業後継者育成資金を貸り受け、仲間四人と共に連棟ハウス12aを建設し前進化を図りましたが、栽培経験者が少なく、慣れない作業温度管理肥料管理の善し悪しにより品質の格差が大きくなり戸惑い苦労の連続でした。でも適期適作業土づくりで心掛け品質も良くなり、味の良いトマトを

私の選んだ道

昭和四十一年度卒
中村支部 柳田 千代子



今回女性初めての、優良農家として表彰を頂き大変光栄に思います。私は昭和四十一年度本校を卒業して六年后、農業に最適な田園地帯に住んでいる主人のもとに嫁いで二十二年になります。主人は、消防団・農協理事その他の役に大変忙しい毎日です。経営内容は、毎40a、稲5ha、麦2haの

我家の農業経営

昭和四十七年度卒
大内支部 坂本 安靖



私は、昭和四十七年度に真農を卒業しました。私の真農進学当時の昭和四十四年は、第一次減反政策が発表になり多くの農家の長男の同級生がどたん場になって農業高校から工業や普通高校に進路を変更しました。私もそのような中で、大変迷ったものです。とは言ってもそれは、ただ単に友人の多くが真農ではなく別の高校に行ってしまうというだけの単純なものでした。結局、両親に押し付けられた格好で真農に進学した訳です。一年生の

優良農家紹介

昭和三十七年度卒
真岡支部
谷田部 廣導



私は昭和三十七年度真農を卒業し、以来今日まで農業一筋歩いて参りました。卒業当時曲り角に来た農業という言葉が氾濫し、米麦中心の農業に深刻さが増して参りました。そんな中、池田内閣の所得増進計画に始まり、田中内閣の日本列島改造論により日本経済の底知れぬ高度成長が始まって参りました。農業面に於いても例外ではなく、牛馬中心であった中から農業機械の移り変わりも激しく、トラクターが入ったと思うと耕運機からトラクターへ、水稲の手植、手刈りから田植機、バイ

我家の農業経営

昭和四十五年度卒
中村支部
関 亦節子



私は昭和四十五年に真農を卒業と同時に就農しました。当時を顧みるとほとんどの人が農業以外の職業に就きました。前の畑で仕事をしていたとみんなできれいな服を着て通り、うらやましく思いました。私も自身農業以外に興味を抱いており、Pメロンを50a、夏秋ナス50aと作付面積を増やして来ましたが、両親の年齢化により、現在は水稲250a、Pメロン40a、秋ナス40aです。労働力は

父・母・私の三人で、夏秋ナスのV字型誘引栽培Pメロンのハウスで、長期安定・多収・高品質・省力省力化が図られて来ました。病害・抵抗力の強い害虫に悩まされるなど、いろいろ大変な事もありましたが、今後は少しでも良い方向へ進める様努力したいと思っています。すぐ北側が工業団地になっているので、いつまで出来るか分からないし、農業に対して不安感があります。消費者の気持を考え、できる限り長く経営の向上を考えながらやっていきたいと思っています。このように私の養豚

農業クラブ全国大会 最優秀賞受賞

代表 生活科 篠原寿江
三年五組



いつか大きな喜びとなつて返ってくるものだと思います。私達が、この様な賞を得ることができ、又、長い間こゝまでこられたのも校長先生をはじめ、指導者の小森先生、諸先生方、研究室の先生の心温まる励ましと御指導のおかげと全員感謝しております。又、同窓会長さんより、受賞記念に立派な盾を八名全員がいただき、その感激は忘れることができません。そして、私達の受賞を喜んでくださった皆さん、本当にありがとうございました。

私達八名は十月二十二日から二十四日まで新潟県で行われた第四十二回日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表で農業関連産業に関する部に出場しました。一日目は、開始式や説明会、発表リハーサルなどを行いました。どのチームも上手だったので私達も頑張らなくてはという思いでした。二日目は、いよいよ本番でした。県大会、関東大会は昨年出場したので、あまり緊張せずにできたけれど、全国大会は初めての出場なので、とても緊張しました。でもここまできたら、今までの練習の成果を全て出しきり、落ち着いて発表した結果、最優秀賞を得ることができました。三日目は、代表者発表というところで、農業経営に関する部、農業関連産業に関する部、生活に関する部で、最優秀賞を得た。そして、この中で一位を得た部の人達が文部大臣奨励賞を得られるのですが、まさか私達が受賞するなんて思ってもいませんでした。最初は半信半疑でしたが、次第に喜びがこみ上げてきてとても嬉しかったです。全国大会へ出場できただけで充分だと思つていたので、この様な素晴らしい賞を得ることができたことは、忘れることのできなないものとなりました。

私達は、研究や発表を通してチームワークの大切さと友情の素晴らしさを学ぶことができました。時には嫌になったこともありますが、みんなで励まし合いながら、ここまで来ることができました。そして、今までの苦労は

学校祭を終えて

生徒会会長 篠崎達也
三年一組

十一月六日から十一日までの六日間、本校にとつて八十四周年目にあたる学校祭が開催されました。七日に行なわれたマラソン大会では、男女とも長い道のりでしたが、皆それぞれのペースで完走し、多くの新記録者を出しました。

九月に行なわれたヤングフェスティバルでは、選ばれた代表者が、持ち前の喉を披露し、盛大な盛り上がりを見せてくれました。そして十日は、二年に一度の「公開」の日であり、統一テーマ「豊かな明日を求めて」のもと、職員・生徒とも地道に企画準備を行なってきた成果を発表しました。又、同窓会青年部やPTAの参加もあいまって、盛大に開催されました。

クラス展示では、各クラスとも個性や特徴を生かした、趣向に凝った内容でした。クイズやパズルを行つたクラス、修学旅行先の資料展示を行うクラス、生物工学などの研究展示を行うクラスなど、様々でした。又、「不要品バザー」、「縁日」など、販売や即売を行なうクラスもみられました。専門分会の展示では、プロジェクトの展示、紹介をはじめ、メロンやシクラメンなどが展示され



平成四年度入学生より 制服変わる

生徒指導部長 小林浩行

同窓会会員の皆様には、常日頃より、何かと御協力をいただいております。事に対しまして、厚くお礼申し上げます。さて標題にもありますように、制服を、男女とも平成四年度入学生より全面的に改定することにいたしましたので宜しく御理解と御協力をお願いいたします。

改定の背景といたしましては、学科再編で新設された事に伴いイメージアップがはかれ、新しい制服の導入も必要と見做されております。その結果、今年度の十月に、男女とも四種類の最終見本ができました。それらを、全職員及び三団体役員、全生徒にアンケートを実施し、最終的に、下記の制服を決定いたしました。その制服を教務室に展示しておいた所、すてきだ、是非着てみたかったなど好評でした。

又、過日開かれた生徒指導委員会及びPTA役員会で役員の方々に、御説明を申し上げ、見ていただき、勉強をしようという結果、同時に、資料を収集してくる事より始めました。他校の様子なども伺いながら、慎重に検討を加え、その間に在校生全員に制服に関するアンケート

以下に制服の仕様書と写真を掲載いたします。

〈前身頃〉

2本タック

素材：ウール50%、ポリエステル50%

スリット

〈前身頃〉

ステッチ

襟穴（先穴）

箱ポケット

箱ポケット

〈後見頃〉

セミソフト型（鉛＝メタル）

センターベンツ

〈ベスト〉

2つボタンのセミダブル

ウール50%、ポリエステル50%のタータンチェック

〈スカート〉

10本車ヒダ

ウール50%、ポリエステル50%のタータンチェック

〈上衣〉

コバステッチ

素材：ウール100%のサキソニー織りソフトタイプ、紺。

〈女子制服仕様書〉

コバステッチ



活動報告

生徒会の一年

生徒会顧問 黒崎 照史

今年度の生徒会は、顧問である私をはじめ、多くの役員が生徒会活動に携わることが初めてというきびしい状況の中、会長篠崎達也君が力強い牽引となつて「生徒たちによる自主的な生徒会運営」の基本理念のもとに十六名の役員をまとめ、多くの行事の運営にあたり、多忙を要した。

平成三年度の行事を振り返ってみると、一学期は部活動紹介、常任委員会、生徒総会、球技大会、野球部の応援。二学期は体育祭、益子養護学校運動会への参加、学校祭。冬休みのスキー教室。三学期は予餞会などがあつた。

部活動紹介では、各部が新入生を前に自分の部の紹介をするわけですが、各部とも工夫をこらし、一人でも多くの新入生を自分たちの部に入部させようと熱弁をふるいました。今年は山岳同好会の部への昇格が認められ、真農高の活躍のフィールドが、また一つ増えました。

部活動では、陸上部、弓道部の関東大会出場をはじめ、各部とも昨年を上まわる好成績を残しました。益子養護学校の運動会参加は、今年度より本校

役員の来年度の活躍を期待したいと思います。

農業クラブの一年

農業クラブ顧問 川原井 英男

今年度の農業クラブは会長菊池秀紀君を始め十九名の役員が一丸となつて活動してきました。農家の発表競技には、意見発表、プロジェクト発表、農業鑑定競技、家畜審査競技、測量競技があり、各種目に本校クラブ員も出場しました。

意見発表では、校内大会で最優秀を獲得した、畜産科三年阿久津孝司君（経営に関する部）、農業機械科一年二宮賢二君（畜産科三年）、生活科三年堤由理子さん（生活の部）の三名が栃木農業高校での県大会に出場し、二宮君と堤さんが優秀賞を獲得しました。

プロジェクト発表では、関連産業と生活の部の二部門の県大会が本校会場で実施され、関連の部に昨年に続いて出場した生活科三年篠原寿江さん他七名、生活の部に生活科二年小玉陽子さん他六名が出場し、なんと二部門で最優秀賞に輝き、埼玉県で開かれた関東大会に出場しました。その結果、二年連続出場の中、最優秀賞を頂き、さらに新潟県で開かれた全国大会へと駒を進めることができました。そこでも、信じられないことに、関連の部で最優秀賞、加えて栄

家庭クラブの一年

家庭クラブ顧問 谷田部 幸枝

家庭クラブ活動は、会長菊池さんを中心に九名の役員・各クラスの代表員として顧問が力を合わせて、多くの行事を運営してまいりました。

今年度は、学校が福祉教育推進校になったため「福祉とは？」という問いかけを、生徒達による自主的運営」を基本に指導してまいりました。

平成三年度の行事を振り返ってみると、一学期は家庭クラブ紹介・被服講習会・保育実習。二学期は作品展示会・学校祭・料理講習会。そして年間を通して老人ホーム訪問・クリーン運動・代議員会などがあつた。

家庭クラブ紹介は、新クラブ員に活動内容を理解してもらうため、スライドを利用したり、パンフレットを作ったりしておりました。被服講習会は、母の日のプレゼントということで七宝焼きのペンダントを作りました。参加者が少なかつたのが残念でした。保育実習は、園児は毎年のことなので楽しみに待っていてくれるような感じが受けました。役員達も、「あのおじいさん元気かな？」などという話が出るようになり、老人に対する見方が変化してきましたように感じられました。昨年同様、報徳寮・トイレの清掃、空き缶拾いを

行ないました。これらの活動を通して、いく分ではありますが、クラブ員の中に、福祉に対する関心が湧いてきたように思いました。

最後に、会長の菊池さんが見られた。高校時代の思い出の一つになることとして、作品展示会では、各クラブ員の夏休み中の宿題を展示し、投票を行ない、優秀を競い合いました。昨年よりもより高度の技術を取り入れた作品が多かつたように思いました。学校祭は、公開ということで、作品展示・即売・甘味処を行ないました。役員達は一カ月前から準備に追われ、当日も目の回るような忙しさでした。でも、代議員の協力で、無事終了できました。料理講習会は簡単に焼けるチーズケーキを作りました。参加者も多く、出来上りもよく大変好評でした。老人ホーム訪問は、昨年同様役員と希望者の参加としました。ホームでの活動に心の触れ合いを深めるため誕生会参加や七夕祭りの準備・夏まつり参加等を取り入れました。そのほか、私達が訪問することとを以前よりも楽しみに待っていてくれるような感じが受けました。役員達も、「あのおじいさん元気かな？」などという話が出るようになり、老人に対する見方が変化してきましたように感じられました。昨年同様、報徳寮・トイレの清掃、空き缶拾いを

巣立つ後輩に
先輩の援助を...

進路指導部長 亀和田 一夫

日本経済の好景気も頂点に達し、凋落気味かと言われた本年の就職戦線も、昨年にも増しての求人倍率で順調な高い内定率を上げることが出来た。この陰には各界で指導的立場で活躍されている多くの同窓会諸先輩の影響が大きいと感じています。

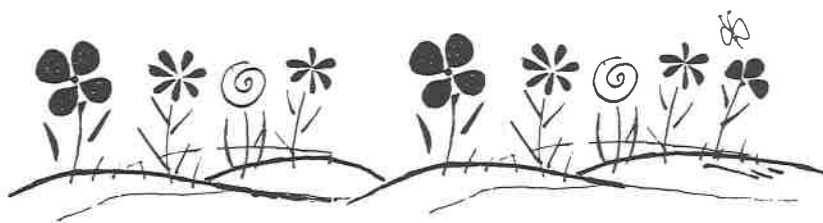
求人訪れる各企業の人事担当者は必ず口を揃えて諸先輩の働きぶりを説明してくれた後、真農農業高校の卒業生の優秀さを賞めたうえで、このことは単なる外交辞令だけではないことは察することが出来ます。係担当者として大変うれしく光栄に思いました。

同窓生諸先輩方に感謝すると同時に、これから社会に巣立つ生徒への各企業の期待の大きさを察知する時、非常に大きな使命感を感じない訳には行けません。

これからの農業高校の教育は新時代の要請から新しい教科・科目を取り入れて学んで行かなければならない転換期に差し掛かっています。特に情報処理教育やバイオテクノロジーに関する学習や資格取得に関する学習に力を注ぐ必要が生じています。現在までは農場を中心としての実験、実習学

習で充分な時間をかけることにより勤労意欲、責任感、真面目さ、協調性などの良い面を伸ばすことが出来た。この素晴らしい真農農業高校の教育の伝統を崩すことなく新しい社会のニーズにこたえるために十分学習に取り組みで行かなければならないと思います。

農業自営者は数の面では少なくなっていますが、内容は質の高い専業農家の後継者が揃っている。後多に活躍することが期待出来ます。経営改善対称生徒として十五名が卒業予定です。進路は国立大学・県農業大学校・研修などを経て就職予定です。



三年間を振り返って

三年五組 堤 小百合

ふり返ってみると、本当に短かい三年間でした。でもこの三年間で、多くの人達と出会い、沢山の思い出ができました。これで私の学生時代は修了する訳ですが、満足はいく学生生活を送りました。目を閉じると、入学してから今までの思い出が鮮明に一瞬ずつ、流れていきます。下級生には負けられない球技大会、雨天を願っても毎年快晴の下行われる水泳大会、白熱の体育祭、地獄のマラソン大会など、今までは季節ごと恒例に行っていた各行事が、来年からはもうないのかと思うと、気が抜けてしまいうそです。

気がついた時には、残された行事は卒業式だけとなっていました。もう一度、桜の中で入学式を迎えた十五歳の私に戻りたくります。あんなに楽しく笑えた日々には、もう二度と戻れません。

この三年間で、確実に私は大きくなれました。勉強にしても、やればできるということが実感できて、自分なりに力がついていたと思います。そして何よりも、友人関係の中で多くのものを学んだような気がします。



地域に開かれた学校を目指して『学校開放講座』

本校教諭 月井 誠 一

高齢化社会を迎えて、生涯学習が叫ばれている現在、本校においても地域に開かれた学校として、学校開放講座「アカデミア」が実施されている。そもそもこの講座は、歴史が長く、第一回は昭和三十一年に開始され、以来今年で二十一回目になる。その間、農業高校の特徴を生かした園芸や食品加工・料理・被服などの内容の講座が開かれ、地域の婦人を中心として、大変好評で、受講希望者は毎年定員をオーバーしている。



今年のテーマは、「家庭園芸と手作りの味」と題して、学校の農場の一隅を提供しての家庭菜園、夏の豆腐づくり、そして秋にはシクラメンや洋ランなどの鉢花の管理法・フラワーデザイン、冬には正月を飾る松竹梅の寄せ植えなど、園芸と生活が結びついている。今年度の受講者は四十六名で、一名を除いてすべて女性であった。年齢構成では、四十代が一番多い。年間十三回の講座で、皆勤者が十一名。一回のみの欠席者が九名という状況で、ほとんどの受講者が、毎回眼を輝かせて、講師の先生方の説明を聴き、熱心に実習している。そして、自分のでき上がった作品を家庭に持ち帰って飾ったり、家族と共においしく食べたり



同窓会総会・祝賀会 盛大に開催さる

平成三年度同窓会総会は、四月三十日(火)本校会議室で開催された。出席者は、(上三川町は十二月)で当選された同窓議員は次のとおりです。

◎叙勲

黄綬褒章 小坂利雄氏
勲五等双光旭日章 山田博氏、勲五等瑞宝章 小宅栄氏、勲六等単光旭日章 染谷鉄雄氏

◎優良農家

真岡 谷田部廣導氏
山前 榎毛 政好氏
中里 友久氏
大内 坂本 安靖氏
中村 中沢 一三氏
柳田千代子氏
久下田 豊田 浩之氏
菊田 聡氏

◎議会議員(届出順)

宇都宮市 早乙女俊夫氏

同窓会役員

◎本会役員
会長 菊地恒三郎
副会長 早乙女俊夫
常任理事 金敷 芳雄
副理事 佐藤利一郎

◎支部長

真岡 山田孝一郎
山前 山下圭治
大内 小坂利雄
中村 川又 侃
久下田 川村 武夫
物部 野沢 弘
長沼 海野 保
益子 小出 貫凡
田野 広田源太郎
七井 佐藤 忠雄
水橋 小林 武一
祖母井 山本 豊
南高 黒崎 亨
茂木 荒井 睦夫
小貝 関沢 仙
市羽 小林 泉吉
宇都宮 早乙女俊夫
清原 半田 光有
瑞穂野 早乙女俊夫
本郷 小口 栄敏
上三川 なし
河間 渡辺 忠雄
茨中 杉山 恵一
五所 間々田亮一
小栗 飯島 荷
岩瀬 吉田 誠義
部長 高平 登順



会報十六号がまともになりました。会員の皆様方に親しく、お届けできる事を愉快に思います。

第一面にあるように、菅谷校長は本校の出身であります。昭和二十七年この様に、母校で校長として活躍をいただけた事は、本校にとっても校長先生にとりましても誠に意義深い、有難い状況であると思います。

これを契機として母校の益々のご発展をひたすらに念じている私共であります。これからの会報編集に思うには、編集委員の強化を図り、多彩な記事内容を充実いたして学校の鏡と言える会報を本校の歴史の一つとして残せるように、その上これを豊かに活用して同窓会の発展に寄与したいと念願しております。

編集委員長 井野 博